

令和 6 (2024) 年度日本歴史研究コース授業計画

授業名	総合資料学			
担当教員	後藤 真			
授業概要	<p>「総合資料学」とは、大学・博物館などが持つ資料を多様なかたちで分析・研究するための学問である。本授業は、多様な「もの」資料を時代・地域・分野などによって分類し、これまでの学問分野を越えた視点から総合的に分析するものである。この総合資料学の研究方法について、国立歴史民俗博物館の総合展示・膨大な収蔵資料を通して習得することをめざす。さまざまな「もの」資料について、単体では得ることのできない情報を引き出すことで研究的資源として幅広く活用することのできるような能力は、広義の歴史学の研究能力を豊かにするうえでは欠かせない。</p>			
教育目標・目的	<p>さまざまな「もの」資料を分類して、再統合する過程において、人文情報学の知識とスキルの獲得は欠かせないので、まずこの点での実践的知識や技術を習得する。そのうえで、実際の展示物、収蔵品とデジタル化された資料情報とを結びつけることで、自らの力で具体的な「もの」資料から歴史像を組み立てるような能力（展示などで表現する能力）を鍛える。さらに、それをめぐって議論を組織し、異なる歴史観や歴史像の間での相互理解をするために必要な知識や方法を身につける。</p>			
成績評価	<p>授業内容を踏まえた最終的なチームでのプレゼンテーションの内容（50%）および、そのプレゼンテーションへ至るまでのチームへの貢献状況（50%）で評価する。</p>			
授業計画	1.総合資料学入門	9. 総合資料学各論 6 （現代資料）		
	2.総合資料学と歴博の展示・資料	10. 総合資料学各論 7 （画像資料）		
	3.人文情報学概論	11. 総合資料学各論 8 （その他多様な資料）		
	4.総合資料学各論 1 （歴史資料 1）	12. 歴史展示手法の検討 1		
	5.総合資料学各論 2 （歴史資料 2）	13. 歴史展示手法の検討 2		
	6.総合資料学各論 3 （歴史資料 3）	14. 歴史展示手法の検討 3		
	7.総合資料学各論 4 （モノ資料）	15.プレゼンテーションと討論		
	8.総合資料学各論 5 （多様な近代資料）			
実施場所	歴博の指定された部屋及び展示室	使用言語	日本語	
前期・後期の別	前期集中	対象年次	3, 4, 5	単位数 2
教科書・参考図書	<p>『歴史情報学の教科書』（文学通信、2019年） 『歴史研究と＜総合資料学＞』（吉川弘文館、2018年）を参考図書とする</p>			

備考

今年度は9月初旬に連続4日間の集中講義形式にて開講を予定。
※修士課程学生（博士前期課程1・2年次生）の履修も可。